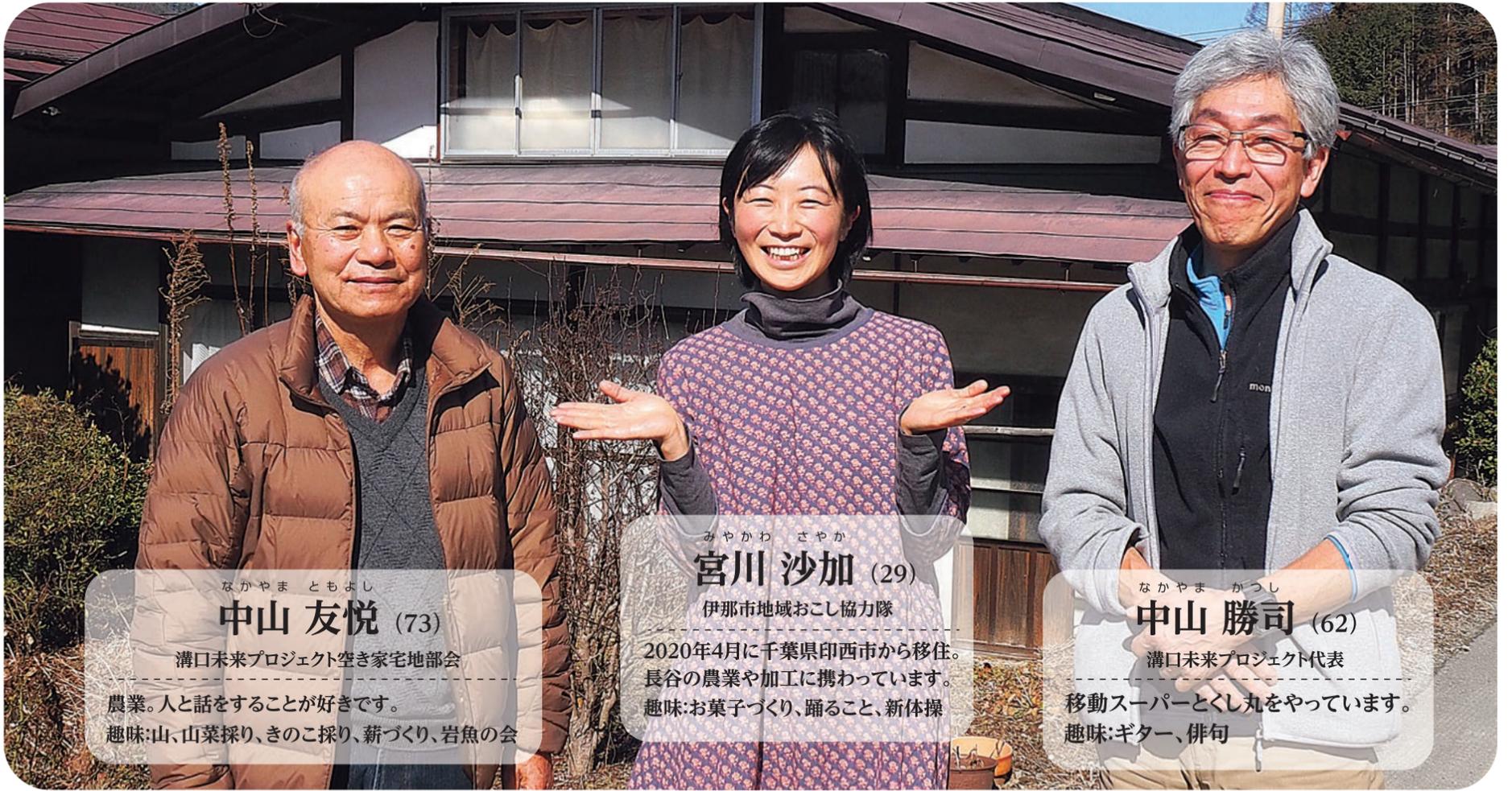


編集委員

中山勝司、中山友悦、中山幾雄、橋爪勇志  
羽場友理枝、坂野心一朗、松井博、宮川沙加

# はせ 長谷みらい広場 vol.1

長谷で暮らす人と人をつなげる



なかやま ともよし  
**中山 友悦 (73)**

溝口未来プロジェクト空き家宅地部会

農業。人と話をするのが好きです。  
趣味:山、山菜採り、きのこ採り、薪づくり、岩魚の会

みやかわ さやか  
**宮川 沙加 (29)**

伊那市地域おこし協力隊

2020年4月に千葉県印西市から移住。  
長谷の農業や加工に携わっています。  
趣味:お菓子づくり、踊ること、新体操

なかやま かつし  
**中山 勝司 (62)**

溝口未来プロジェクト代表

移動スーパーとくし丸をやっています。  
趣味:ギター、俳句

## 巻頭座談会

### 移住してきた人たちと 一緒にふるさとを創る

#### 溝口未来プロジェクトとは？

**中山勝司(以下、勝)**・・・溝口未来プロジェクトは、平成27年3月に「10年後も20年後も溝口が元気でいられるように」との思いから発足しました。溝口区を見たときに何が必要かを会員で考えた結果、住む、生活する、仕事の3つが必要だということで、空き家宅地部会、生活環境部会、産業創生部会ができました。活動2年目に溝口区が田舎暮らしモデル地域に指定され、移住希望者の相談、移住してきた人の支援も行っています。

**中山友悦(以下、友)**・・・保育園の園児数も減ってきていたし、何かしないとと思ったよね。

#### 長谷みらい広場発刊！

**友**・・・移住者のフォローをしている中で、交流の場がほしいって意見があつて、一昨年、移住者交流会を溝口未来プロジェクトでやったんだよね。40人くらいが集まってくれて、結構盛り上がった。今年もやってほしいって声があつたんだけど、コロナの影響でできなかったね。

**勝**・・・それでも何かしら交流ができないかって考えて、「長谷みらい広場」の発刊に至ったんだよね。今回、宮川さんにも編集会議に入ってもらったけどどうだった？

**宮川沙加(以下、宮)**・・・私自身、長谷には昨年4月に来たばかりなので、この紙面で知りたいことを

平成27年3月に始まって6年を経過した溝口未来プロジェクト。溝口を中心に長谷全域で空き家対策や移住者支援などを行っています。ここでは、「長谷みらい広場」の発行の経緯や溝口未来プロジェクトの活動について中山勝司さん、中山友悦さん、宮川沙加さんにお話ししていただきました。

少し提案させてもらいました。私は料理も好きなので、ご家庭の漬物レシピを教えていただくことができて嬉しかったです。(関連記事・2画)

**友**・・・移住者さんも地元の人も、関わりがないと知らない人が多いから、この紙面で少しでも地域の人が知ってもらえるといいね。

**勝**・・・「長谷みらい広場」も編集委員で名前を出し合っていて、交流できるような場にしたっていう思いからついているしね。

#### 長谷の魅力って？

**勝**・・・宮川さんはどうして伊那を選んだの？

**宮**・・・主人がバイク旅で伊那に来たときに、いつかここに住んでみたいって思ったそうです。移住前に何度か伊那に足を運びましたが、人の距離感がすごくよかったです。伊那に決めた中で、住むなら山が近いところがいいと思い、長谷にしました。

**勝**・・・長谷全体で見ると移住者って結構いて、その人たちはこの不便さも含めて魅力に感じてくれてるよね。

**友**・・・あと、小中学校の教育のあり方の影響はあるかもね。昔は中学を出たら外に出るって教育だったけど、今は地元を見つめるって教育だから地元に残ろうって思ってくれる人も増えてるね。

**宮**・・・移住者は移住前に地域の人と関係性を作っておきたいという

人も多いんです。地元の方との交流の場を持てるといいかもしれないですね。

**勝**・・・1年長谷に住んでみてどう？

**宮**・・・景色も人も良くて楽しく暮らしています。今は借家で、定住先を探しているんですが、物件探し結構大変ですね。

**勝**・・・そうなんだよね。溝口も貸し売りできる空き家が少ないから、他地区でも空き家を探してる。

**宮**・・・後から帰ってくるかもとか、荷物を置いているとか、いろんな思いがあるので難しいです。移住者の受け入れで心がけていることってありますか？

**友**・・・地元の人も移住者も心地よく生活できるように、はじめにある程度のルールは伝えていくね。納得してもらって住んでもらわないとお互い嫌な思いをするからね。

**勝**・・・田舎暮らしは、みんなで生きていく意識は必要かもしれないね。  
**友**・・・溝口未来プロジェクトが始まった当初に、勝司くんが一移住してきた人たちと一緒にふるさとを創る」って言っていた言葉が印象に残っていて、この活動の根幹にあるものかなと思う。これからも地元の人も移住者も心地よく暮らせるように、長谷にできるような取り組みを考えていきたいと思います。(文・羽)



# 地域と人をつなぐ

ここでは、長谷にどんな人が  
住んでいるのかをご紹介します。

## 地元の人



きたじま りょうこ  
北島 良子さん (写真中央) [長谷非持]

## 郷土の味を若い世代へ

北島さんは、平成14年まで長谷保育園園長をされ、その後も保育、介護の仕事に携わり、現在は溝口区の宅幼老所「みなみ」にて介護員をされています。子供からお年寄りまで、幅広い年齢の方との関わりに驚くと、「人に声をかけたり、お世話をするのが好きなの」と穏やかに話されるのが印象的でした。地域の婦人が集まり、地元を受け継がれてきた食文化をみんなで継承する取り組みを行う『長谷食文化の会』にも在籍されていていらっしやうたそうです。その当時は、月に一度集まり、当番が決めたメニューを昔ながらの調理法で作ったり、持ち

寄りなどをして味比べをしたりと情報交換の場になっていたそうです。郷土の味を子供たちにも知って欲しいと、冬になると同じ地区の春日裕江さんとともに、長谷中学校で野菜漬物を子供たちと交流しながら漬け込んでいきます。学校では、野菜漬物を家庭でも味わってもらうために、お土産にして生徒に持って帰らせるそうです。その他にも、「氷餅」「凍み大根」など、保存食作りの興味深いお話を聞かせていただきました。このような地域の色が、引き続き若い世代にも繋がっていくと良いなと思います。(文・宮)

## 残していきたい長谷の文化

病院に長年お勤めされていた中島さんは、今は地域の福祉施設で働いています。

漬物をつけることやお料理が趣味で、この日も胡瓜の佃煮、たくあん、渋皮煮、新生姜の漬け物などたくさん手作り品を持ち寄ってくださいました。中島さんのたくさんは干さず、その代わりに塩漬けを3日間するところがミソだそうです。

中島さんは定年退職されてから畑を始めたのですが、今でも試行錯誤しながら、愛犬「はなちゃん」のお散歩がてら、地域の方のやり方を見て真似たりしているとのこと。畑仕事

の楽しみは、出来上がった作物でどんなものを作ろうかなあ！と、考えながら育てることができるところだと仰

います。

保存食作り以外にも、編み物教室などにも通い、長谷地域外の方とも交流を続けています。新しいレシピを聞いたらメモを取り、自分流にアレンジするのも楽しみのひとつだそうです。

お話の中でも印象に残っているのは、「昔の人は、一日中、地域をお茶飲みして歩く文化があった」ということ。10時頃と15時頃に、それぞれの玄関先でお茶を飲んで交流していたのが楽しかったということ

です。地域の交流の場が薄れている現代ですが、ここ長谷にあった、あたたかい文化を失いたくないと感じました。(文・宮)

## 地元の人



なかじま ふみこ  
中島 文子さん (写真中央) [長谷溝口]

高台にある家からの眺めはとてもよく、お気に入りだそう。この地に住んで良かったことを伺うと、「子どもの数が多くていいなと思います。息子と同級生になる子たちがいると思うと安心しますし、皆さん協力的に接してくださいるのでありがた

いです」とさつきさん。時節柄、子育て中のお母さんたちは意外とお話をする機会が少ないので、「郷土食のお料理教室など、何かをしながら話せる場があったら嬉しいな」と、そんな思いも話してくださいました。「今後の目標は地元で仕事を作れるようにしたいと思っています。農福連携や地域のお母さんたちと農作業を共にしながら、雑穀王国の岩手県のように長野県からも発信して行けたらと思います」と平さん。農業従事者の高齢化など、課題もある長谷地区にとって心強い存在です。(文・羽)

## 移住者



ゆうき しんべい おお  
結城 晋平さん、さつきさん、青くんご家族 [長谷非持]

## 持続可能な農業の発信

埼玉県出身の結城晋平さんと松本市出身の結城さつきさん、青くんご家族は、仕事のご縁で高遠町に移住し、昨年長谷地区に住んでいます。

おかめひよっとこ農場という農場名で主に小麦、ブルーベリー、ズッキーニ、雑穀を栽培・出荷している農家さんです。

「今後の目標は地元で仕事を作れるようにしたいと思っています。農福連携や地域のお母さんたちと農作業を共にしながら、雑穀王国の岩手県のように長野県からも発信して行けたらと思います」と平さん。農業従事者の高齢化など、課題もある長谷地区にとって心強い存在です。(文・羽)

## 思い描いた夢にむけて

2019年11月に東京都調布市から長谷に移住された松井さんご家族。「ユニボに乗るのが夢！」の博さんと、介護資格の取得を目指す美香里さん、そして4月から長谷保育園に通う予定の美桜ちゃん

の3人家族です。現在は、空き家バンクで取得した195坪の古民家に住んでいます。新しく薪ストーブを入れ、水回りはリフォームをしましたが、古民家の雰囲気は残したまま暮らしていくつもりです。薪の入手がなかなか難しく、山を手に入れて自分で切りに行けたらと思っ

ているそうです。この春から、地域の方に教わりながら家庭菜園も始めるとのこと。地域の方との親密な交

流や、毎日の生活の中で変化していく景色を見られることに長谷に来た喜びを感じていると言います。今後の展望を伺うと、「第一にユニボに乗ること。そして秘密基地をつくり、山遊びがしたい。蕎麦の栽培にも興味があります」と博さん、「カフェなど、地域の方と様々な体験を一緒にすることがビジネスに繋がっていったら良いな」とご夫婦、口を揃えます。今は「思い描いている夢が、一歩一歩実現できているのが実感できる」と、温かい薪ストーブの前で楽しそうにお話ししてくださいました。(文・宮)

## 移住者



まつい ひろし みかり みお  
松井 博さん、美香里さん、美桜ちゃん ご家族 [長谷溝口]



ユニボ

# 私の好きな場所

長谷でお気に入りの場所を  
教えていただきました。



美和湖散策路南側の東屋



東屋から南方を望む

この場所が中央構造線の真上にあるということも、関係しているのかも知れません。犬の散歩で毎日のように立ち寄り、あげたおやつを犬が平らげの間、腰を下ろして眺めます。四季折々、刻々と変化するこの場所からの光景は、長谷に来てから12年経った今でも飽きることなく新鮮そのものです。(文・坂)



二つあるうちの南側の東屋です。ここからの眺めがとても気に入っています。手前の美和湖の湖面から遙か向こうのV字にへこむ分杭峠へと集束していく透視絵のような光景。さらさらと輝く水面や青空に浮かぶ白い雲と太陽の光。そして吸い込まれるような不思議な空間は、南北に長く、しかも逆光で望むことができます。この場所ならではです。

## 美和湖散策路の東屋

ばんの しんいちろう  
坂野 心一朗 さん

2008年(H20年)  
2月に横浜から  
移住してきました。

(茶臼山動物園  
でのワンショット)



## 伝統の技を受け継ぐ 「溝口木炭部会」

寄稿：木炭部会長 中山秀穂さん

長谷地域には、さまざまな活動をしている団体があります。ここでは、木炭部会の中山秀穂さんにご寄稿いただきました。

見学できます！  
興味のある方はご連絡ください



二代目溝口木炭部会のメンバー (前列中央：中山秀穂さん)

平成26年、高齢者が多く体力的に限界がきて解散が提案されましたが、一部の若者から地域に炭を焼く者がいなくなり、

### 二代目溝口木炭部会

溝口には現在木炭を窯で作っているグループがあり、木炭を製造販売しています。このグループの歴史からお話しします。昭和から平成なかばまで、長谷地域にはグループで炭を焼く組織がいくつかありました。その一つが溝口の木炭部会です。溝口生産森林組合の中のグループで、組合所有の山から檜の木材を切り出し、炭を焼いてきました。冬場の仕事として鹿嶺線五十目地籍にあった窯で、身体を動かし作業終了後の一杯を楽しみ、天下国家を論じる10人ほどの仲間達でした。

平成28年3月に新たな場所(南郷の若宮地区)へ、伊東修さん(杉島)の指導で新しい窯の建設に取りかかりました。新しい窯を作るのは大変で、屋根工事まで終えるのに5カ月を要しました。真夏の8月8日に初めて火をいれ、以降9名で現在に至っています。旧窯の時は、炊き込み、精錬、止釜等を煙等の色や量などの状態で判断し

### 新しい釜完成！

技術が継承されない。「若者が力を出すから技術の力添えをしてください」という形で、二代目木炭部会が9名程で始まりました。先輩の経験と技術を得ながら続けてきましたが、窯が老朽化し危険となり新しい窯づくりに着手しました。

### 今後の課題

木炭作りの将来については原木の檜の木が害虫により枯れてきて(ナラ枯)、今後の調達が出来なくなる心配があります。また、窯以外の施設が未整備なので倉庫、休憩施設なども設置したいと考えています。しかし、先ずはこの先を担う後継者探しが急務です！見学もできますので、興味のある方はご連絡ください。

炭焼きの様子が  
動画でご覧いただけます



新しい窯を建設中 (写真左：伊東修さん)

# 長谷の人口の変遷を知ろう

未来を担う子供たちがカギ

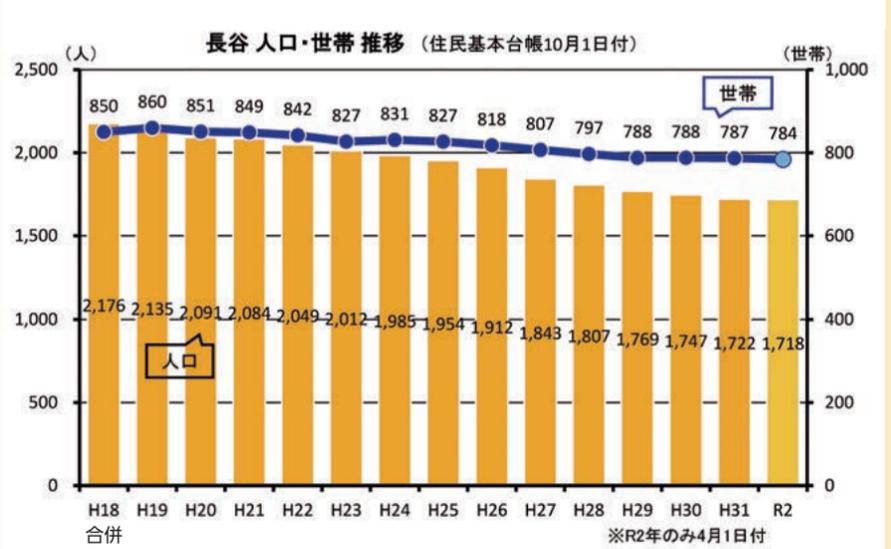
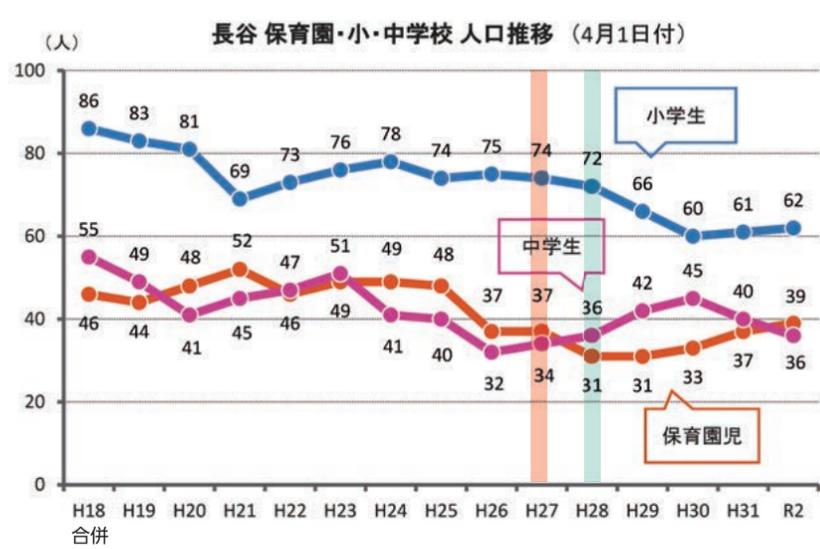
私たちの住んでいる長谷地域は、平成18年(2006年)3月31日に長谷村から伊那市に合併しましたが、合併から現在までの間に人口はどのように変わったのでしょうか？

長谷全体の人口は約21%減少しています。年少人口(15歳未満)が減少している一方、老年人口(65歳以上)が年齢の高い方へシフトしています(平成18

年10月1日と令和2年4月1日を比較、住民基本台帳)。

下のグラフ(左側)の保育園児を見てください。平成28年を底に増加に転じています。これは丁度、溝口未来プロジェクトが動き始めた時期と重なります。

全国的な少子高齢化の中、未来を担う子供たちを増やしていくことは、長谷地域発展の課題のひとつでもあります。



平成27年3月 溝口未来プロジェクト発足

平成28年4月 伊那市田舎暮らしモデル地域指定

(文、グラフ作成・坂)

長谷地区はクルマが無いと生活が成り立ちません。一軒に大人の数以上にクルマがあるような地域です。一方でこれまで地域の足となってきた路線バスの利用が激減し、公共交通の見直しが地域の大きな課題となっています。

伊那市では令和二年より市周辺地域の公共交通手段として「ぐるっとタクシー」の運用が始まりました。今年エリア拡大に伴い、二月に長谷地区でも試験運行が行われました。路線バスですと、伊那市街地まで往復すると二千人近くにもなります。「ぐるっとタクシー」では料金の見直しもされ、自宅玄関から目的地玄関まで行くことができる、願ってもない公共交通です。その代わり、高齢の方々が使い慣れた従来の路線バスの運行は大幅に縮小されてしまいますので、不便になると感じる方も多いのではないのでしょうか。

また予約の方法が、電話の他に、スマートフォン、パソコン、そして伊那ケーブルの専用の機械を購入する方法など、高齢の方には馴染みの無いものを推奨しています。使いやすい電話

## 「ぐるっとタクシー」を しっかり利用しよう



予約は当日の予約しかできませんし、料金割引もありません。一番利用すると思われる高齢の方々にはとても使いにくいものになっていると感じます。

試験運行の中でいろいろな問題、不具合、要望が出ると思いますが、利用者の方の声を反映したより良いものになればと思いますし、私たち地域住民も、長谷地区の重要な公共交通となる「ぐるっとタクシー」をよ

り使いやすく、便利なものにしていくよう取り組んでいくことが大事だと思います。

これからの地域の足となる「ぐるっとタクシー」をしっかりと利用して、良いものにしていきましょう！

(文・勝)



※利用には事前の登録が必要です。

詳しくは 伊那市役所 企画部 企画政策課(0265-78-4111)まで

YOUTUBEで  
ご覧いただけます



どんど焼き



長谷クリスマス



長谷の暮らしの動画を  
信大生が撮ってくれました

お問い合わせ

溝口未来プロジェクト産業創生部会  
中島章 0265・98・2419



溝口未来プロジェクト副代表  
中島章

長谷保育園 クジラ農園  
ボランティア募集

ボランティアを募集しています。お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ

溝口未来プロジェクト空き家宅地部会  
中山友悦 090・4388・4866

長谷の空き家・宅地を案内します！

空き家バンクに登録していない物件です。  
・溝口2件(うち1件は蔵) ・黒河内2件 ・中尾1件  
・宅地 溝口5件ほど  
関心のある方はご連絡ください。

お問い合わせ

溝口未来プロジェクト生活環境部会  
大村妙子 080・1259・0744  
松井美香里 080・7712・0640



溝口未来プロジェクト副代表  
大村妙子

お子さん預かります！

お知らせ

